

探究学習における 教育的評価入門

6.22 7.20 8.3 (土)

各回 13:30~15:40

講師 **森本 和寿**

大阪教育大学 総合教育系 特任講師

専門は教育方法学。大学・大学院では総合・探究関連科目を担当。ライティング教育研究を中心に、書くこと、考えること、生きることの関係について研究。

本セミナーでは、探究学習における評価のあり方について、入門的な内容を講義します。探究を「調べ学習」で終わらせないために、評価を「値踏み行為」や「無評価」で終わらせないために、「探究×評価」における教育的可能性を考えていきましょう。

全3回のセミナーですので、すべての回を通してのご参加をお勧めいたしますが、単発でのご参加も歓迎いたします。

スケジュール

- | | | |
|--------------|------------|-----------|
| 第1回 6/22 (土) | ①探究学習の意義 | ②探究学習の進め方 |
| 第2回 7/20 (土) | ③問いづくりの深め方 | ④情報収集と分析 |
| 第3回 8/ 3 (土) | ⑤探究評価の理論 | ⑥探究評価の実践 |

*1日2コマ開催 1コマ60分 13:30~14:30、14:40~15:40 予定。 各回セミナーの詳細は裏面をご確認ください。

申込方法

各回それぞれについて、以下URL もしくは QRコードより予約フォームにアクセス願います。

第1回 6/22(土) <https://forms.gle/Uti7qPgg6xRg7iK96>

第2回 7/20(土) <https://forms.gle/cyUdKZfaV4G76vwr9>

第3回 8/ 3(土) <https://forms.gle/M3KcadybWLnQg2sB9>

申込
期限

[6/22 開催分] **6月12日(水)** まで

[7/20 開催分] **7月10日(水)** まで

[8/ 3 開催分] **7月24日(水)** まで

対象・定員等

学校関係者・一般（高校生）の方
(定員：対面のみ **15名**)

アクセス

大阪教育大学 天王寺キャンパス
みらい教育共創館 3階 未来型教室



【お問い合わせ先】

大阪教育大学未来教育共創戦略担当室 Mail : mirai@bur.osaka-kyoiku.ac.jp



(6月22日分)



(7月20日分)



(8月3日分)

6/22(土)

- 13:30~13:40 趣旨説明
- 13:40~14:20 講義「探究学習の意義」
- 14:20~14:30 質疑応答
- 14:30~14:40 休憩
- 14:40~15:20 講義「探究学習の進め方」
- 15:20~15:40 質疑応答（15:40終了予定）

近年、学習指導要領や教科の編成においても「探究」の重要性が強調され、一種の「探究ブーム」になっています。一方、「探究なんて不要。まずは教科の基礎学習」という語りも巷間で取り沙汰されています。

では、なぜ探究に取り組むのでしょうか。どのように取り組めばよいのでしょうか。本講座では、「流行っているから必要」論、「探究なんて不要」論を超えて、改めて探究学習の意義と進め方について考えてみましょう。

7/20(土)

- 13:30~13:40 趣旨説明
- 13:40~14:20 講義「問いづくりの深め方」
- 14:20~14:30 質疑応答
- 14:30~14:40 休憩
- 14:40~15:20 講義「情報収集と分析」
- 15:20~15:40 質疑応答（15:40終了予定）

探究に取り組み始めると、探究活動が「調べ学習」に終始してしまっているように思える瞬間があります。「調べ学習＝ダメ」というわけではありませんが、果たしてこの活動は「探究」になっているのだろうかという悩みは、「探究あるある」でもあります。

本講座では、探究において問いづくりをいかして深めるか、また調べ学習の一步先へ進むための情報収集と分析の方法について考えてみましょう。

8/3(土)

- 13:30~13:40 趣旨説明
- 13:40~14:20 講義「探究評価の理論」
- 14:20~14:30 質疑応答
- 14:30~14:40 休憩
- 14:40~15:20 ワークショップ「探究評価の実践」
- 15:20~15:40 質疑応答（15:40終了予定）

学校文化において「評価」は、「必要だけれど、ちょっとこわいもの」です。特に日本では「評価に対する厳格さ」と「評価フォビア（評価恐怖症）」は表裏一体です。テストで評価できればラクですが、「探究の成果をテストで測るのは、ちょっと……」という思いが残ります。

本講座では、探究を評価するとはどういうことか、探究の評価はどのように行うのかという点について、理論と実践の両面から考えてみましょう。